

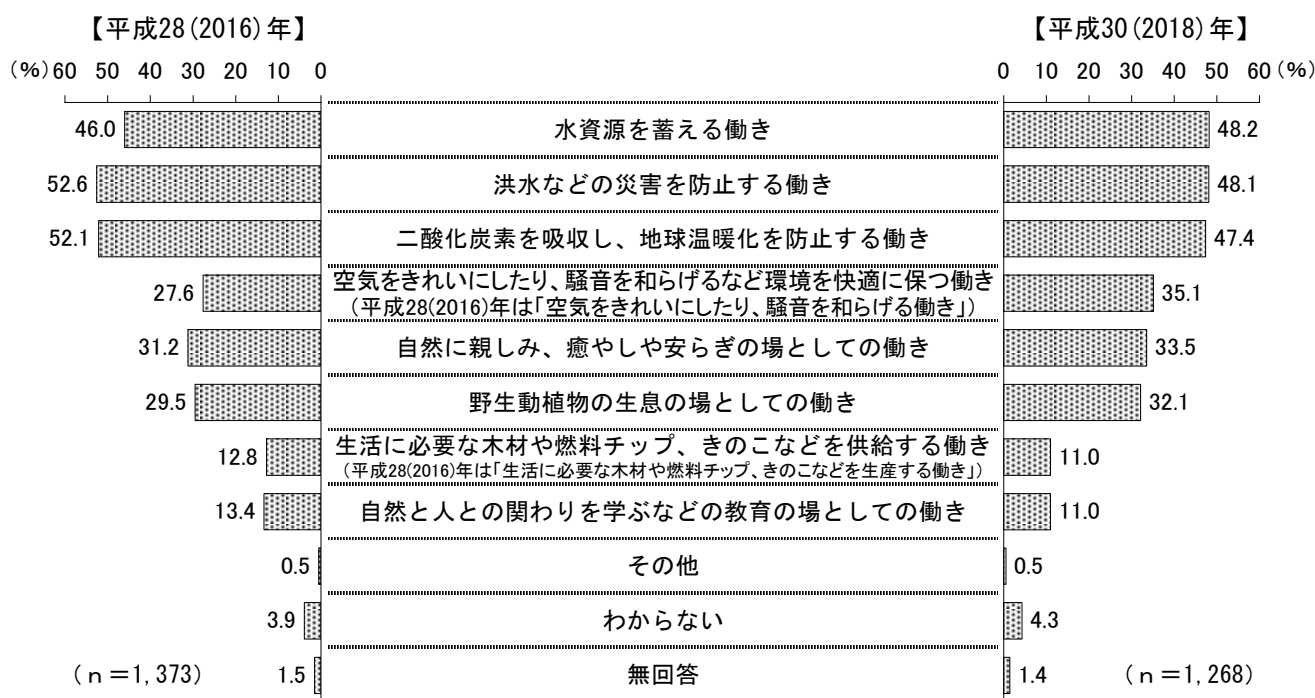
9 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問22 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,268]

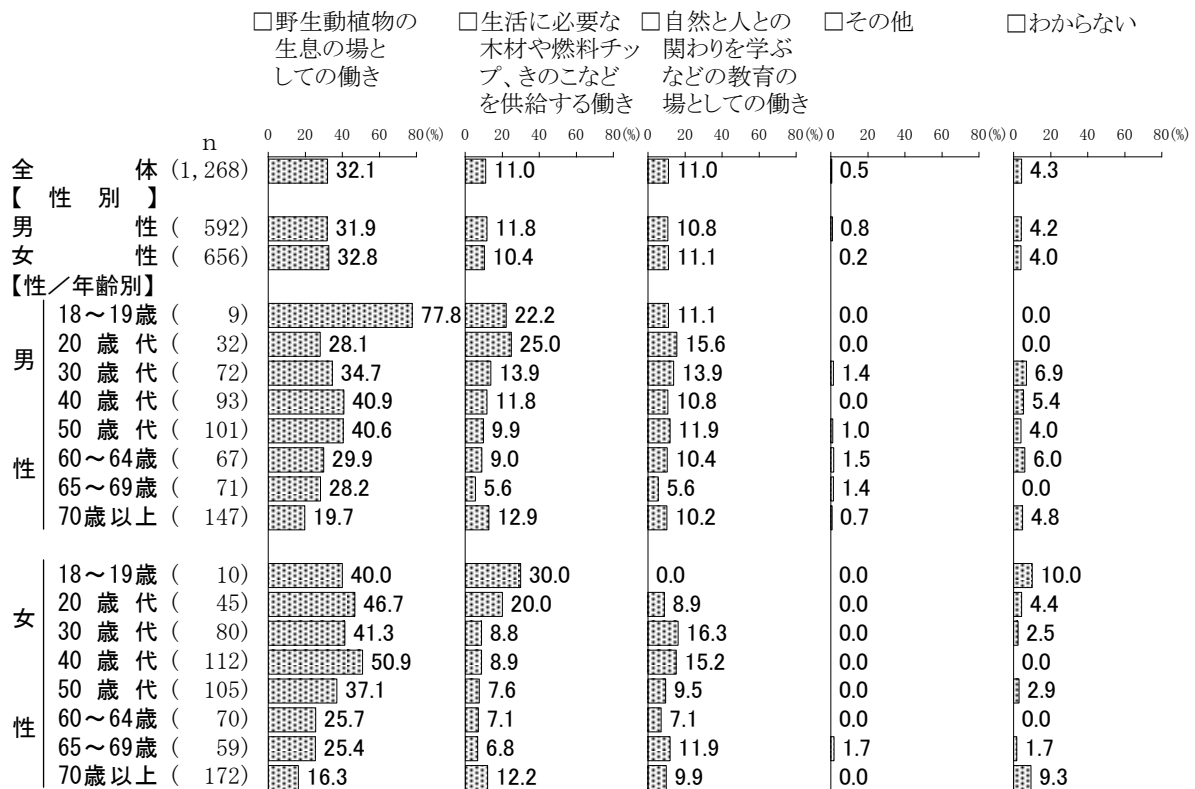
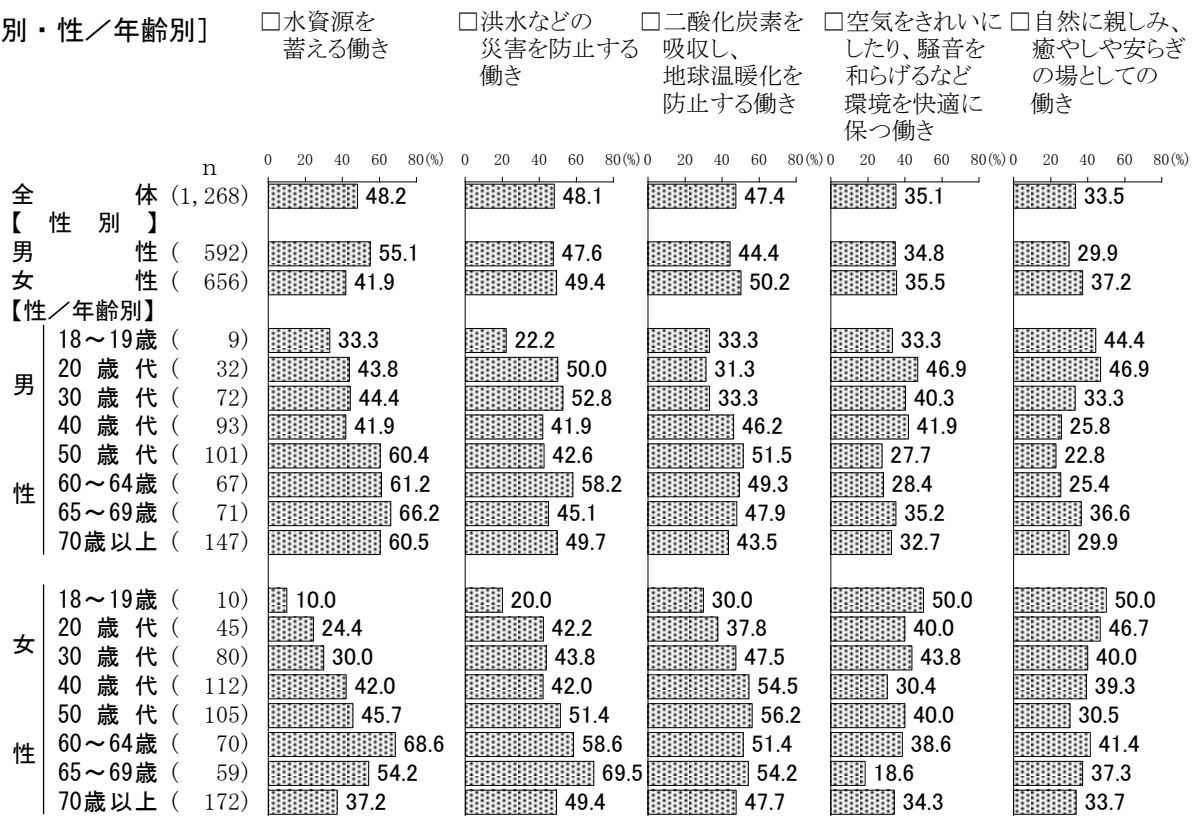
1	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	11.0%
2	水資源を蓄える働き	48.2
3	洪水などの災害を防止する働き	48.1
4	野生動植物の生息の場としての働き	32.1
5	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	35.1
6	自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き	33.5
7	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	11.0
8	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	47.4
9	その他	0.5
10	わからない	4.3
	(無回答)	1.4



全体で見ると、「水資源を蓄える働き」(48.2%)と「洪水などの災害を防止する働き」(48.1%)、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(47.4%)がそれぞれ5割近くで高く、次いで「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」(35.1%)、「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」(33.5%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(32.1%)の順となっている。

平成28(2016)年の調査結果と比較すると、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」が7.5ポイント増加している。一方、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」が4.7ポイント、「洪水などの災害を防止する働き」が4.5ポイント、それぞれ減少している。

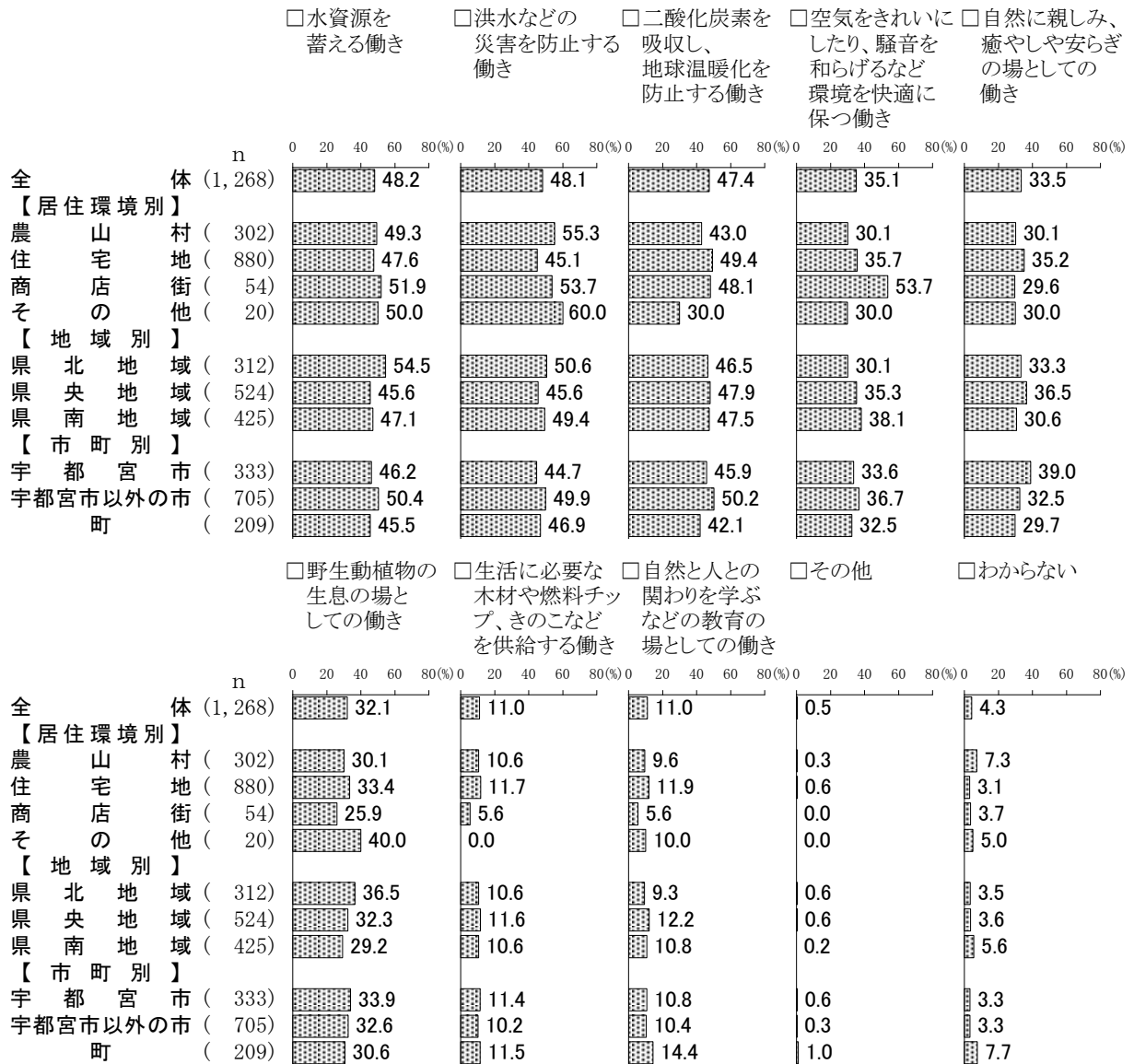
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(55.1%)が〈女性〉(41.9%)より13.2ポイント高くなっている。「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」では〈女性〉(37.2%)が〈男性〉(29.9%)より7.3ポイント高くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性〉(50.2%)が〈男性〉(44.4%)より5.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈女性60～64歳〉が68.6%、〈男性65～69歳〉が66.2%と高くなっている。「洪水などの災害を防止する働き」では〈女性65～69歳〉が69.5%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈女性40歳代〉が50.9%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈農山村〉が55.3%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈商店街〉が53.7%と高くなっている。

地域別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈県北地域〉が54.5%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈県南地域〉が38.1%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈県北地域〉が36.5%と高くなっている。

市町別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈宇都宮市以外の市〉が50.2%と高くなっている。「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」では〈宇都宮市〉が39.0%と高くなっている。

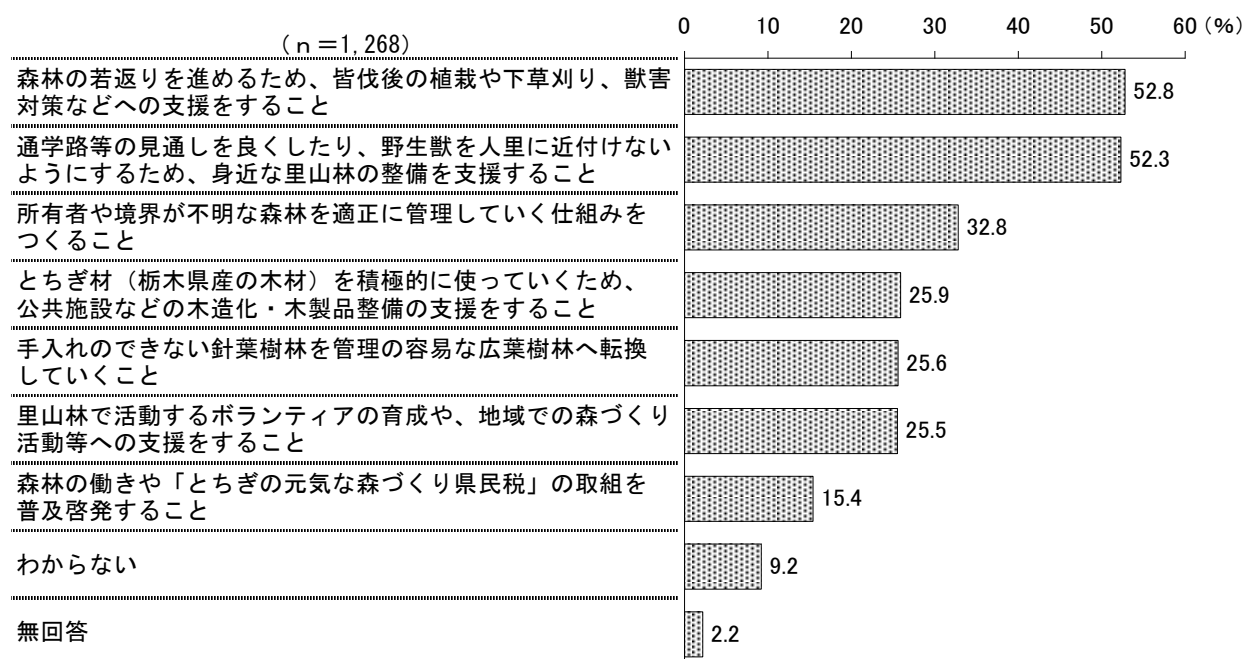
(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問23 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

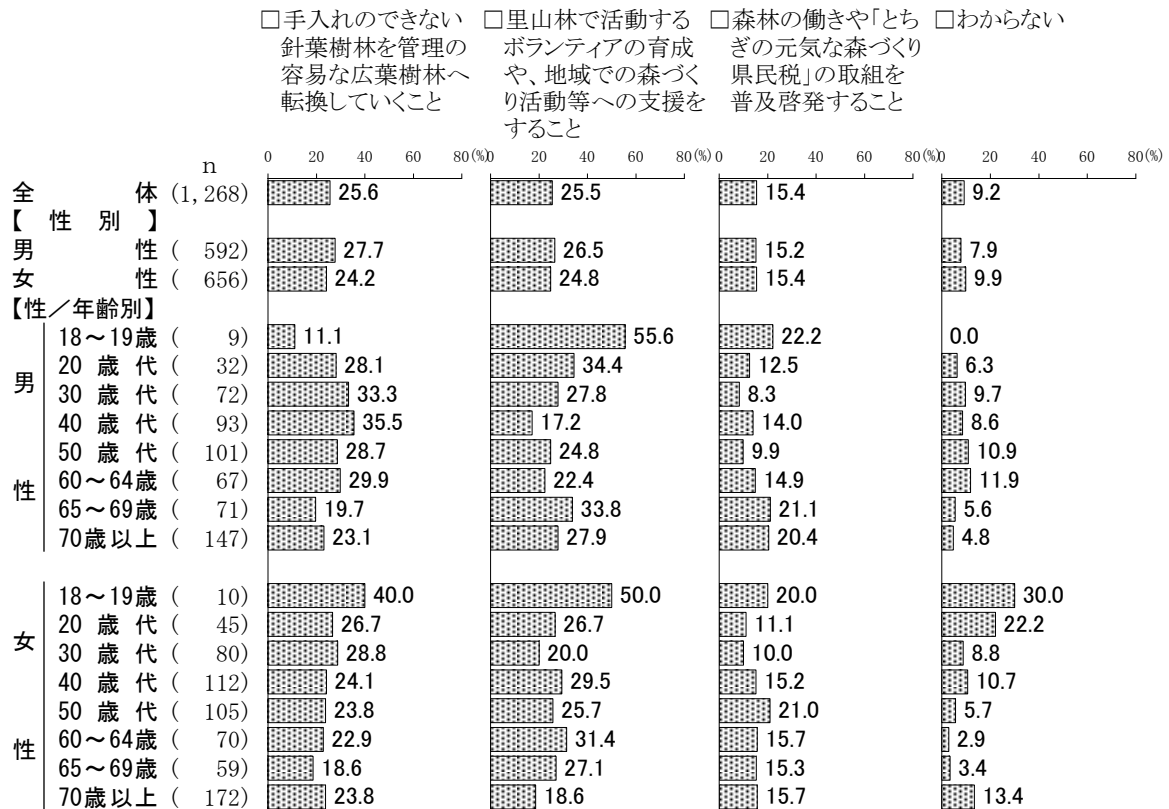
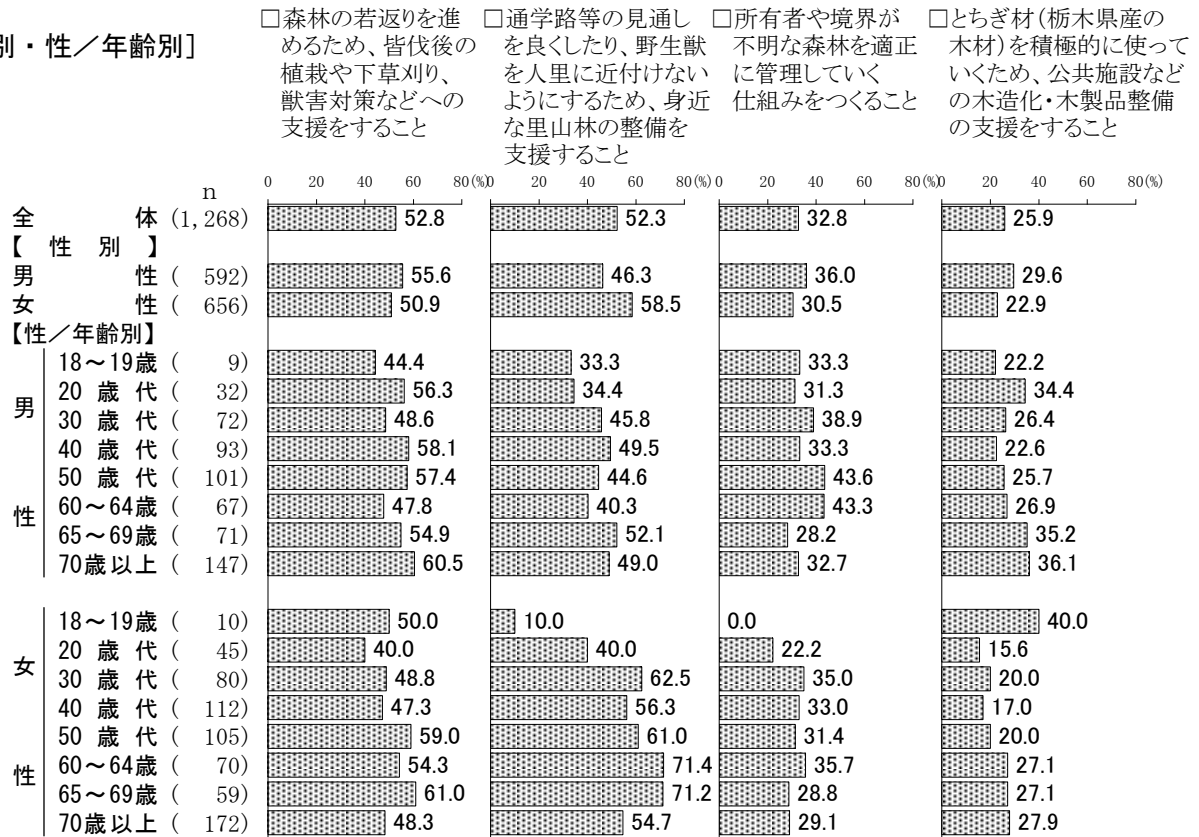
[n=1,268]

1	森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること	52.8%
2	とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること	25.9
3	手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと	25.6
4	通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること	52.3
5	里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること	25.5
6	所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること	32.8
7	森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること	15.4
8	わからない	9.2
	(無回答)	2.2



全体で見ると、「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」(52.8%)と「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(52.3%)がともに5割を超えて高く、次いで「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(32.8%)、「とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」(25.9%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(25.6%)、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」(25.5%)の順となっている。

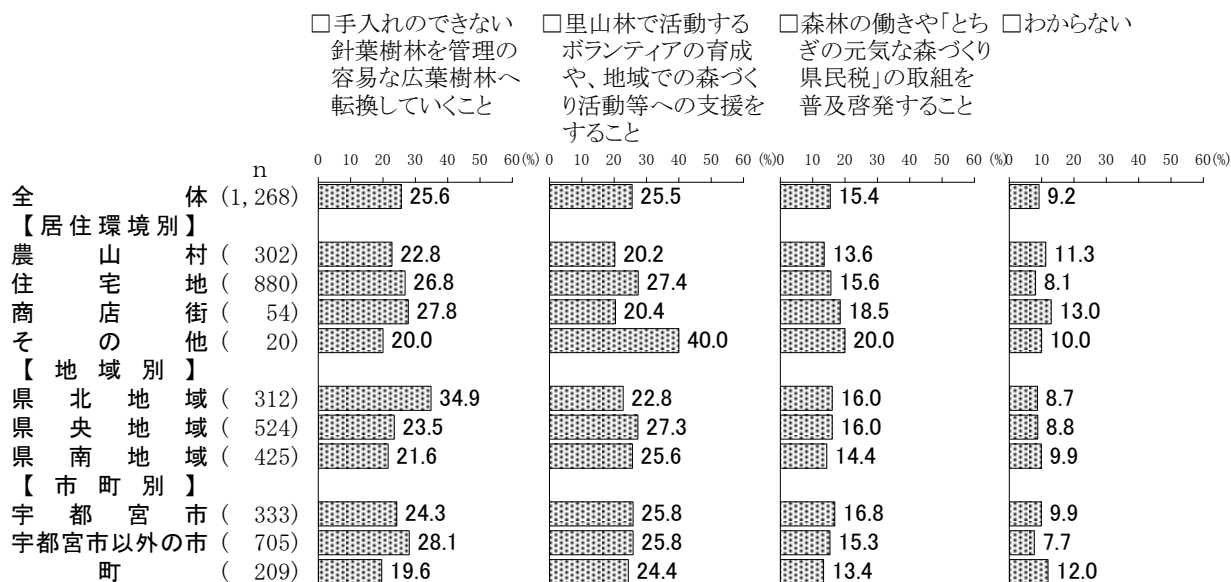
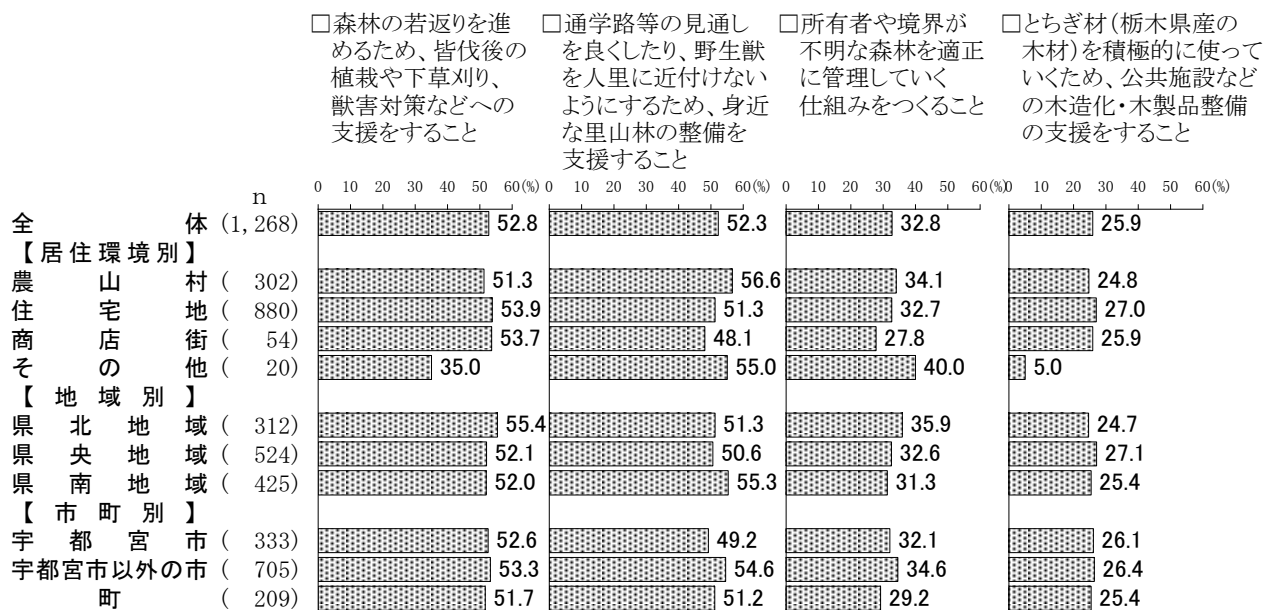
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉(58.5%)が〈男性〉(46.3%)より12.2ポイント高くなっている。「とちぎ材を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」では〈男性〉(29.6%)が〈女性〉(22.9%)より6.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性60~64歳〉が71.4%、〈女性65~69歳〉が71.2%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性50歳代〉が43.6%、〈男性60~64歳〉が43.3%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈農山村〉が56.6%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈住宅地〉が27.4%と高くなっている。

地域別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈県北地域〉が34.9%と高くなっている。

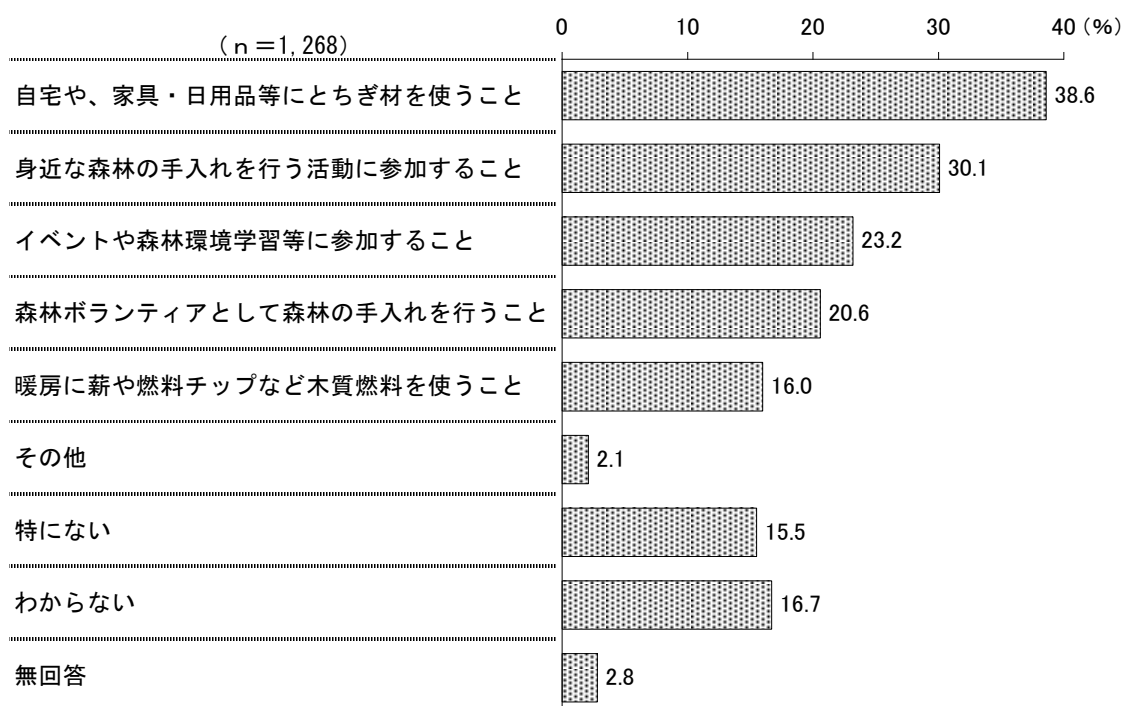
市町別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈宇都宮市以外の市〉が54.6%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈宇都宮市以外の市〉が28.1%と高くなっている。

(3) とちぎの森林を元気な姿で次世代に引き継ぐためにできる取組・したい取組

問24 とちぎの森林を元気な姿で次世代に引き継ぐために、あなたが、個人として「できる」又は「したい」と思う取組はどれですか。次の中から3つまで選んでください。

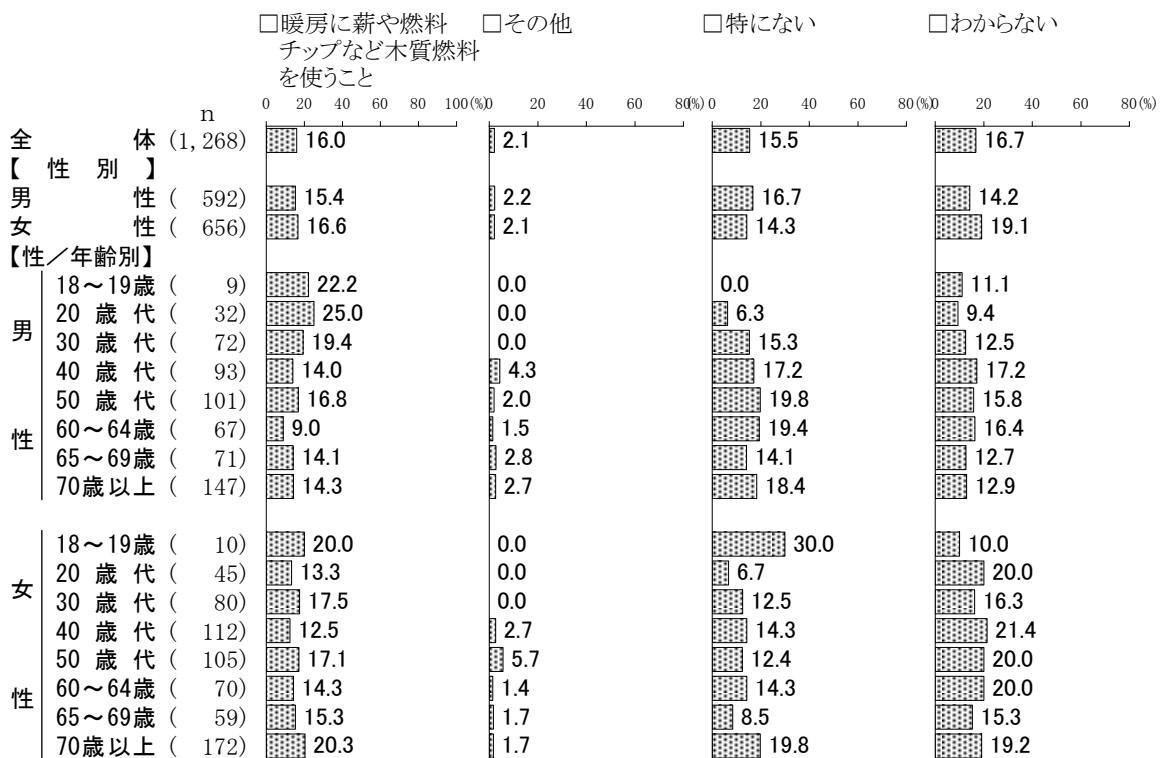
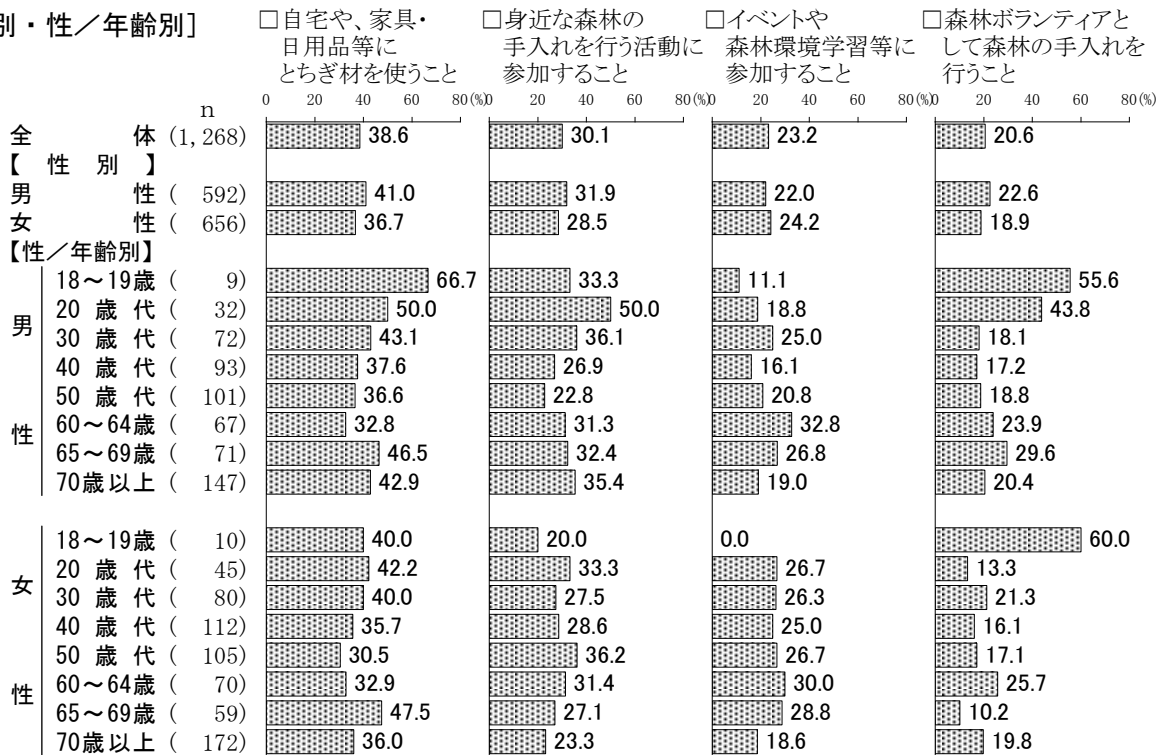
[n=1,268]

1	自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと	38.6%
2	暖房に薪や燃料チップなど木質燃料を使うこと	16.0
3	身近な森林の手入れを行う活動に参加すること	30.1
4	森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと	20.6
5	イベントや森林環境学習等に参加すること	23.2
6	その他	2.1
7	特にない	15.5
8	わからない	16.7
	(無回答)	2.8



全体で見ると、「自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと」(38.6%)が4割近くで最も高く、次いで「身近な森林の手入れを行う活動に参加すること」(30.1%)、「イベントや森林環境学習等に参加すること」(23.2%)、「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」(20.6%)、「暖房に薪や燃料チップなど木質燃料を使うこと」(16.0%)の順となっている。

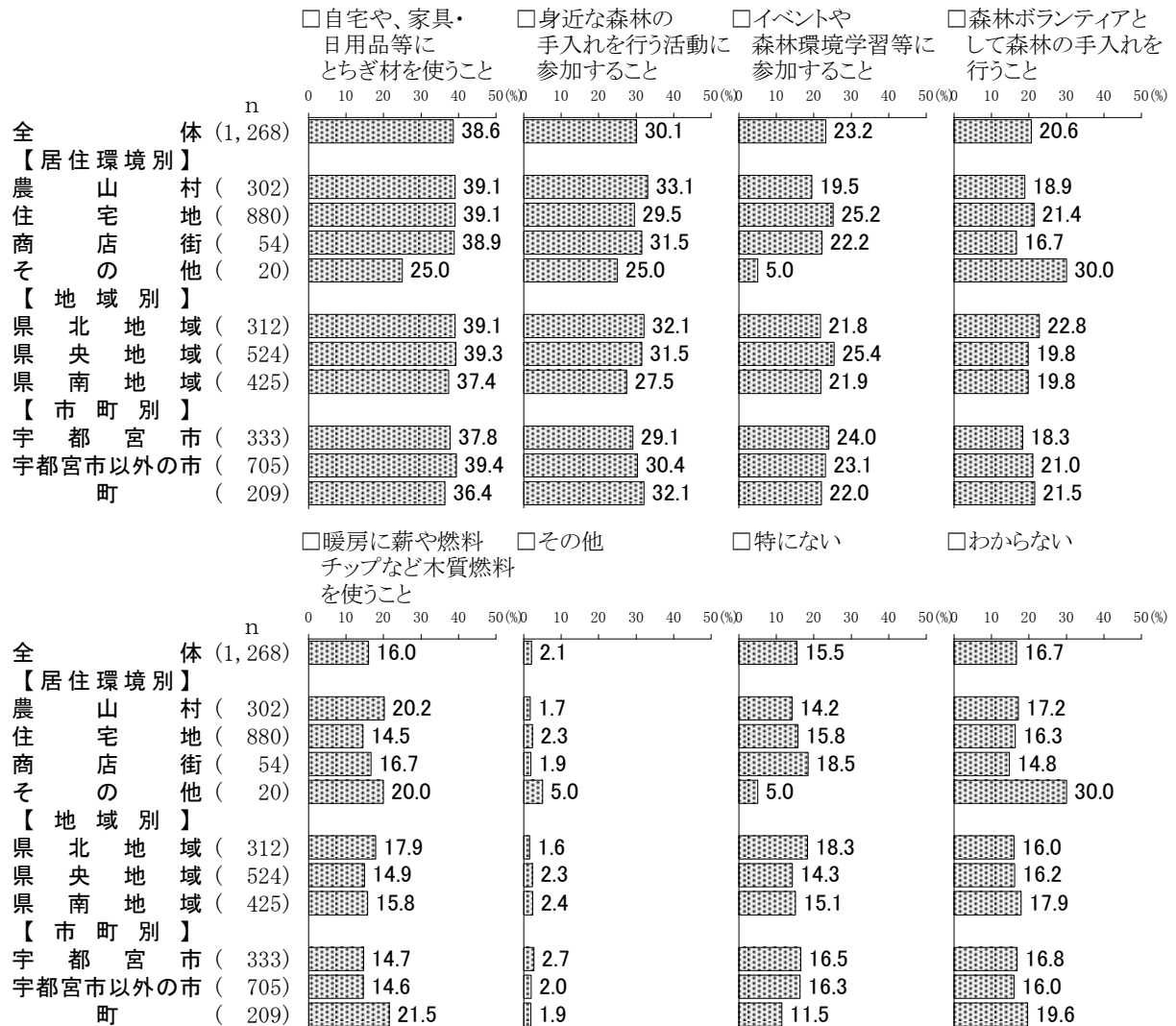
[性別・性/年齢別]



性別でみると、「自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと」では〈男性〉(41.0%)が〈女性〉(36.7%)より4.3ポイント高くなっている。「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」では〈男性〉(22.6%)が〈女性〉(18.9%)より3.7ポイント高くなっている。「身近な森林の手入れを行う活動に参加すること」では〈男性〉(31.9%)が〈女性〉(28.5%)より3.4ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「自宅や、家具・日用品等にとちぎ材を使うこと」では〈男性20歳代〉が50.0%、〈女性65~69歳〉が47.5%、〈男性65~69歳〉が46.5%と高くなっている。「身近な森林の手入れを行う活動に参加すること」では〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」では〈男性20歳代〉が43.8%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「イベントや森林環境学習等に参加すること」では〈住宅地〉が25.2%と高くなっている。「暖房に薪や燃料チップなど木質燃料を使うこと」では〈農山村〉が20.2%と高くなっている。

地域別でみると、「イベントや森林環境学習等に参加すること」では〈県央地域〉が25.4%と高くなっている。「森林ボランティアとして森林の手入れを行うこと」では〈県北地域〉が22.8%と高くなっている。

市町別でみると、「暖房に薪や燃料チップなど木質燃料を使うこと」では〈町〉が21.5%と高くなっている。